

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生れ育った環境、(馴染みのある)地域のなかで、安定した生活ができるように理念を定めている。【誠実】【信頼】【成長】を基本とし取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼にてホーム長を始め職員と唱和し日々意識付けを行っている。	○ 職員が把握できるように、日々の援助やケアプラン他、会議等において随時、説明している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に理念を掲示しているが、理解して頂くような工夫や、取り組みは行っていないのが現状である。	○ 運営推進会議やケアプラン説明時が主だが理念に触れる時間をとりながら進めている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	挨拶は勿論ですが、町内会の行事や老人クラブの行事についても、各会長様に日程を確認しながら参加している。キャラバンメイトについては研修に参加した職員が地域の認知症普及活動に今後参加する予定である。	○ 町内会の活動(便踊り、運動会、)は年間の行事として確立されつつある。その他の地域の活動においても、町内会、老人クラブ会長様から情報を聞き今後、積極的に参加していきたい。小学校との交流があり定期的に進めている。小学生が立ち寄り利用者と交流を図っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行いながら、今までの業務の再認識（振り返り）をする事を目指している。外部評価についても改善すべき事柄については、運営推進会議で家族様に報告している。職員間においては会議において改善する内容について説明し今後について検討している。	○	自己評価・外部評価で指摘については会議等にて、職員一人一人が理解出来る様にわかり易く説明し改善策を一人一人が考え、提示出来る様に努める。
6 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や連絡事項等の説明を実施している。又、参加された方々からの疑問点や質問についても、次回の会議において報告し納得を得ている。	○	意見を出し易い雰囲気作りに取り組む事は勿論ですが、家族様から意見が自然と出てくるような、議題、話題作りに勤めている。
7 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での機会は設けていないが、市役所での実地指導や諸手続き等にて情報交換の場として行っている。		
8 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員は限られており職員全てに把握されているとはいえない。利用者様も現在必要とされる方も相談等もない。		現在問い合わせはないが問い合わせがあれば説明できるように職員に説明している。
9 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修参加職員は限られているため、そのなかで報告を受け会議等で話し合いを行っている。	○	虐待については日頃から注意は払っているが、声かけについて特に注意を払いながら精神的な部分も考慮し今後注意していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要説明書を用い説明を行っている。その際一方的ではなく、十分な時間を取り納得されるまで行っている。疑問点については窓口を統一して対応している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自ら意見を出される方は少ないのが現状である。職員は出された意見について会議において話し合いを持ち速やかに改善を進めている。	○ 利用者様の意見や、不満については意見としては少ないが、出されたものは真摯に受け止め対策を早めに行う。(会議等での情報交換、家族様との連携)又、利用者様と職員の関係について現状で満足せず日々見直しを行っている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や月末に家族宛に身体の状況や行事等の予定など、お便りを送り説明している。金銭、重要書類についてはお預かりし電話にて連絡している。	○ 左記の取り組みを継続しながら家族様とのコミュニケーションを深め信頼関係を築いている。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場において、家族様より意見をお聞きしている。出された意見については、出来るだけ早めに回答出来るように報告を行っている。苦情ボックスは設置されているが、活用はされていないのが現状である。	○ 積極的に話しかけを行ないながら意見等を聞き、職員会議などの場において検討する体制を作る。12項目でも取り上げているが家族様との関係の見直しに取り組んでいく。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見提案については、年2回の個人面談にて聞き入れそれをもとに改善に努めている。	○ 年2回の個人面談に限らず一人一人の思いを引き出せるような場を設けて生きたい。会議の場や日々の業務において機会を作れるように勤める。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯は出来る限り3名体制で要望等に対応できるように行っている。又、行事等で必要な場合には事前に調整し確保しながら支援している。	○ 日々の業務内容は大きく変りはないが、今後利用者様の身体状況などにより、業務の時間の変更やかかわりかたについて検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や必要性のある人事移動はあるが最小限であり利用者様にダメージにならないよう積極的にコミュニケーションを図るなど事前に準備を行い進めている。	○	信頼関係に努めることは勿論だが、個人の個人の尊厳を重要視し関係の構築に努める。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての年間計画は作成しており、それ以外でも必要な研修については随時参加できる体制に努めている。外部の研修については、参加の方向で現在各階より参加しその都度会議等で報告し情報伝達している。	○	年間研修計画書を作成し個々のレベルにあった研修に随時参加する。各職員がスキル向上目的の研修について要望が出た時は、出来るだけ参加できるよう調整して行きたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修に積極的に参加し交流を深めている。。その中で、より良いサービス、支援については参考にしながら独自の支援を提供できるように検討している。	○	他事業所の見学などの意見もあり目的意識を明確にした上で参加させたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	短時間ではあるが休息の時間を取れるように配慮している。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己効果を取り入れ個々に、今後の目標や今までの振り返りを行ないながら評価している。その中で個々の良い点など見極めて説明している。	○	日々の業務の中での行動や支援の方法について良い点、悪い点をその場で言葉で解り易く理解が得られるように説明していき向上心につなげて行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時から、ご本人若しくはご家族様とお会いして、話を聴きながら直接確認や内容から感じ取るように努力している。家族様とは面会時や運営推進会議の場で確認できる様に努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特には行っていないのが実情であるが、相談も現在特に聞かれていない。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所相談時にご本人様が見学するなどの対応を行ない雰囲気を感じて頂けるよう職員は接している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話においては、傾聴だけではなく職員自身の話をする事により、共に共感・信頼関係を築けるよう努めている。活動(手伝い等)においても一緒に行ないその中で得た達成感を共有している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の状況と毎月のお便りにて情報は伝えているが、信頼関係を築きながら支える関係には現在なっていない。	○	家族様とのよりよい関係の構築のため雰囲気作りや関わり方を今以上に積極的に行う必要がある。行事の中で何か共同で出来る事があればまずは取り組みを検討して行きたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や行司に参加して頂けるような雰囲気作りや、家族様を含めた行事を設けられる様検討していく。	○	ご家族様参加型の行事について今年度企画しより良い関係の構築に努める。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族以外の方の面会が少しではあるが、増えてきている。特に支援は行ってはいないが、今後馴染みの場所等聞きながら支援していく。		以前の生活暦を家族様から再確認してなじみの場所など訪れ関係の継続が出来るように支援する。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しない様に配慮はしているが、利用者同士の交流には至っていないのが現状である。	○	係わり合いが苦手な方については職員が仲介役になり支援する。集団での活動に力をいれ（レク活動や体操）喜びを共有できる事に力を入れて行きたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他事業所へ移られた方については、お見舞いや、面会を行っている。	○	仲の良い利用者様においては面会や手紙など関係の継続は支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意志を出せる方が少ないのが現状である。日常において、思いを引き出せるよう情報は家族様から確認し会話の中で引き出しているが完全ではない。	○ ご家族様からの情報を定期的に再確認し努めていく。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族様やケアマネージャーより情報を頂いている。知りえた情報については、会議の場において職員に報告して活用している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の行動パターンは、個々に把握できているが総合的な面において留意して今後勤めて行ききたい。	○ 心身状況については、日々変化されているため常に、主治医や訪看との連絡を密にし観察していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	把握できている情報に、ご家族様からの意見や要望を取り入れ計画している。日常生活において気が付いた点など、職員間で情報を共有し、作成している。	○ 計画作成見直し時期において、早めにご家族様に相談し進める様努める。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを行う。状態の変化においては、その都度変更しご家族様の理解を得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子や実施したケアの内容を記録できるファイルを用意して活用している。	○	個々の課題に沿った内容を記録できるように努めていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現時点では支援は行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には、運営推進会議において様々な情報を頂いている。又、町内会や小学校においては交流は継続している。	○	左記以外については今後必要性が増してくると思われる為、事前に確認する必要がある。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療保険に関するサービス内容については、希望があれば柔軟に対応支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状協働関係はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意志を尊重している。特に希望が無い場合はこちらで利用している機関にお願いしている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在専門医の支援は受けていない。	○	専門医に相談できる体制は必要と考えている為、主治医と相談していく。
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護と情報を交換し、体調の変化など相談している。必要であれば医師の指示にて処置など行っている。	○	何でも相談出来る雰囲気作りに努めている事は勿論の事、定期的に勉強会を開催し信頼関係に努めている。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換を密にし必要に応じた情報を提供している。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、インフォームドコンセントについてご家族には説明している。今後の身体の変化に伴い再確認を行う。	○	今後は終末期に向けた支援が予想される為、職員はその際の心構えを意識し業務に努める。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は取り組みの事実はないが、今後必要に応じ準備が必要と思われる。		ケア・サポート ふたつ家 ユニット2

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族様やホーム担当者への情報伝達は行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の目標に、接遇や（言葉掛け）支援の仕方がよく掲げられる。意識はあるがまだ徹底されていないのが現状である。	○	より具体的に目標を掲げ、毎日振り返りを行い数値化した上で振り返りを行う。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた説明の仕方を常に念頭に置き細かく説明し意志を引き出す工夫をしている。	○	左記に同じ
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に入浴に関しては本人様のペースで行っているが生活全般に関しては職員の都合で行っている場合が時として見受けられる。	○	利用者様の個々のペースに合わせた支援をできる様に体制作りを工夫し、ゆとりのある支援を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	殆どが訪問理容を利用されている。自己決定されている方は、限られているが望む店にて関係を継続し行っている。	○	身だしなみや服装については職員から季節に合った物を着用したり、さりげなく会話の中に盛り込んでみる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ではないが簡単な調理（野菜皮むき、刻む）には声を掛け手伝って頂けるよう支援している。後片付けについても同様無理の無い範囲で支援し手いる。現在は殆どの方が何らかの準備、片付けを行っている。	○	左記の内容に付け加え、食事中的会話も重要であり職員が主体となり話題の提供をし、楽しいものにしていく事が重要である。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体状況により、制限されている方もいるが本人が望む物は、可能なかぎり提供できるように主治医と相談し行っている。	○	左記の内容に同じ。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中に関しては出来る限りトイレでの排泄を支援している。パット、オツム使用されている方については時間など又、本人様の表情や行動等をみて支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2～3日に1度のペースで入浴されている。希望時や病院受診前などについても入浴できるように務めている。入浴したがない方についても、時間を置き職員を変え対応している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自ら休まれる方については様子を観察するなどの支援を行っている。夜間帯の睡眠状況も考慮し、職員から促す場合もある。	○	認知症の症状が思い方に関しては常に観察した上で細かい配慮が必要となる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力を把握した上でその方に合ったものを提供している。（折り紙、塗り絵、レクレーション、外出買物、読書等）	○	日常生活での何気ない会話から出た事柄や興味を示した内容について、職員同士が共有出来る様に情報交換の場を持つ。又、家族様から情報を得ながら進めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての方々の所持金については金庫で管理している。他に本人様が所持されている方も3名様いるが使用頻度は少ない。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様の希望に添って外出は行っているが、偏りがある。身体レベルも考慮し近くへの散歩など実施している。	○	気分転換を図る上では外出は有効である。今後は均一に個々にあった場所への外出を企画していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節的な行事や習慣（墓参りや、お祭り、馴染みの場所などには外出支援している。ご家族様独自でお連れしている場合もある。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については訴えがあれば支援している。手紙については送って頂いた物を見て楽しまれている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた方々についてはゆっくりとくつろいで頂けるように自室を使用している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、他の職員にも伝達されている。	○	目に見えない拘束についても（言葉）改めて職員に意識してケアにあたるように務めている。 ケア・サポート ふたつ家 ユニット2

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在鍵はかけていない。職員が理解した上で支援している。2階の階段については老化から階下が見え又、急であり危険のためドアに鍵を設置している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りはしているが、トイレ使用時など確認が出来ておらず探すことがあるが行動に抑制はしていない。	○	細かな情報交換と居室にいる際もさりげなく観察する。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員が使用するものに関しては保管場所を決め管理している。私物に関していえば状況に応じて支援している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等が起こった場合には必ずヒヤリハット、事故報告書に記入しそれを基に会議において改善に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル自体は整備しているが訓練に関しては定期的に実施されていない。	○	全職員が対応できる様に事故を想定して訓練の実施が必要あり定期的に再確認が必要である。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回避難訓練を実施している。地域協力に関しては現時点では実施していない。	○	地域協力は行っていないが、関係作りに力を入れて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	特に新しく入居された場合に起こりやすい状況なので入居前には詳しく説明、理解を得れるよう努力する。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全ての方が毎朝バイタル測定している。日常生活の中で表情、言動の変化に留意し予兆を把握できるよう努めている。主治医、訪看との連絡は常に行っている。	○	連絡系統についてマニュアルを作成し速やかに連絡できるよう検討している。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全ての方については理解するように努めている。又、状態の変化等において現在服薬されている薬を主治医より確認している。	○	誤薬の危険性について常に念頭に置きマニュアルを作成し統一し支援していく必要がある。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量の確認をした上で、乳製品（ヨーグルト、ヤクルト、イーjeeファイバー）を提供している。又、夕食前が主だが、体操を取り入れ体を動かしながら予防に努めている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に歯ブラシやコップを用意し支援を行っている。夜間帯は全ての方に対し声掛けし支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては十分留意し行っている。偏らないメニュー作りや補食としてエンjyアを提供している。嗜好品を取り入れ必要量に足りない方に関しては事前に準備している。	○	全ての方の嗜好を把握したメニューを献立に取り入れていく。 ケア・サポート ふたつ家 ユニット2

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種や、職員他来客された方々についても手洗い、うがいを呼びかけている。他感染症については、マニュアルは有り活用している。	○	感染マニュアルの活用と意識付けを新たに持つように勉強会を定期的に行う。又、定期的に研修に参加し報告を行ない確認している。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具については毎日ではないが定期的に消毒している。お絞りやエプロンに関しては使用時実施している。	○	食材については賞味期限を常に確認し使用できる様に日付の記入を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇のスペースがあるが有効利用が出来ていないのが現実である。	○	季節の花や植木など利用者様と相談し進めて行きたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには日差しが強いときがある為、カーテンを掛けるなど工夫している。季節を実感していただけるように花や、展示物にも工夫している。	○	階段の踊り場が日光浴に最適な場である為、何名かの方が利用されている。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの他にソファを準備しゆったりとした雰囲気寛げるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みの物などについては気兼ねなく持ち込める よう配慮している。(ダンス、テーブル、花、)		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定期的な換気と換気扇の活用を実施している。温 度管理については、個々の感覚もあり確認しなが ら行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個室に関しては身体面から(出入り口)導線を 個々に考慮した配置にしている。	○	家庭的雰囲気壊さないようにしながらも、入居 者様の身体の変化に伴い使いやすい環境を観察・ 提供していく。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の能力を把握した上で、潜在能力を引き出し ながらその方に合った支援を行っているが完全で はない。	○	環境整備をしながら自然に発揮できる様に努め る。(レク、個々にあった余暇)
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	当ホームは2階建てであり各階別ユニットとなっ ている。エレベーターを使用すれば行き来は自由 であり交流できる。合同での行事も企画し行っ ており関係も良好である。	○	今後は各階の入居者様が交流できるように支援し て行く。左記の通り行事や個々の交流の場を提供 用きるよう検討していく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様の出来る事、出来ない事を職員が把握し支援を行っている。日々、再確認しケアにつなげている。現在入居されている方々は個々に趣味や特技があり、その部分においては継続できるように努めて生きたい。又、集団で出来る事として、体操、レク活動を重視して、日々行っている。その効果として、表情の変化や言動にも少しずつではあるが良い方向に向かっている。(笑顔、発言が増えている。)そこに至るまでは、職員の声かけや活動、手伝いなどを通し以前に比べて喜びや達成感を共有できている成果ではないかと感じています。現状に満足せず利用者様との関わりを増やししながら支援して行きたいと考えています。